

令和8年度 第1回 医療機関・薬局間における  
情報の共有・標準化等に関する検討会

令和8年8月28日

資料2

## 第1回 医療機関・薬局間における情報の共有・標準化等に関する検討会資料

令和8年8月28日

医薬局 総務課

1. 本検討会の背景・進め方
2. 医療機関・薬局間の情報連携（トレーシングレポート）の現状
3. 医療機関・薬局間の情報連携の目指す姿・課題
4. 個別論点への対応
  - 電子化・標準化の対象となる文書範囲について
  - 標準化の方向性について

## 現状

- 医療 DX の推進に関する工程表（令和5年6月2日 医療DX推進本部決定）において、電子カルテ情報の標準化等について、診療情報提供書といった文書情報や、傷病名、検査値といった臨床情報の共有を進め、順次、対象となる情報の範囲を拡大していくこととしている。
- 電子カルテ情報共有サービスで共有する情報については、診療情報提供書等のように医療機関同士で直接やりとりされる情報と臨床情報のように医療機関等から登録された患者情報をデータベースに格納し、複数の医療機関等で参照する情報に大別できる。

## 情報拡充の考え方

- 医療機関等でやりとりする文書情報に相当する情報については、診療情報提供書のように医療機関との間でやりとりの頻度が高いものから検討することとしてはどうか。その際、作成時や受け取り後においてもリソース単位で標準化された情報を利活用できる環境を整備していくべきではないか。
- 全国の医療機関等から閲覧できる情報としてはオンライン資格確認等システム内にレセプト情報（薬剤情報・診療情報）、特定健診情報、電子処方箋の処方・調剤情報がすでに共有されており、今後電子カルテ情報共有サービス由来の臨床情報も追加予定である。閲覧できる情報を増加させることで医療従事者が必要情報を検索・要求するうえでの負荷が増加することも懸念されることから、追加する情報については慎重に検討を進めるべきではないか。即時性をもって閲覧できる情報であるという観点からは、救急診療時・災害時等ユースケースを想定しながら効率的・効果的に情報を利活用するうえで、必要な項目を検討してはどうか。
- 情報を拡充する際には、医療機関等のシステム改修等が想定されるため、現場の負担軽減を図りつつ、拡充するべきではないか。

# 医療機関・薬局間の情報連携について

## 現状・課題

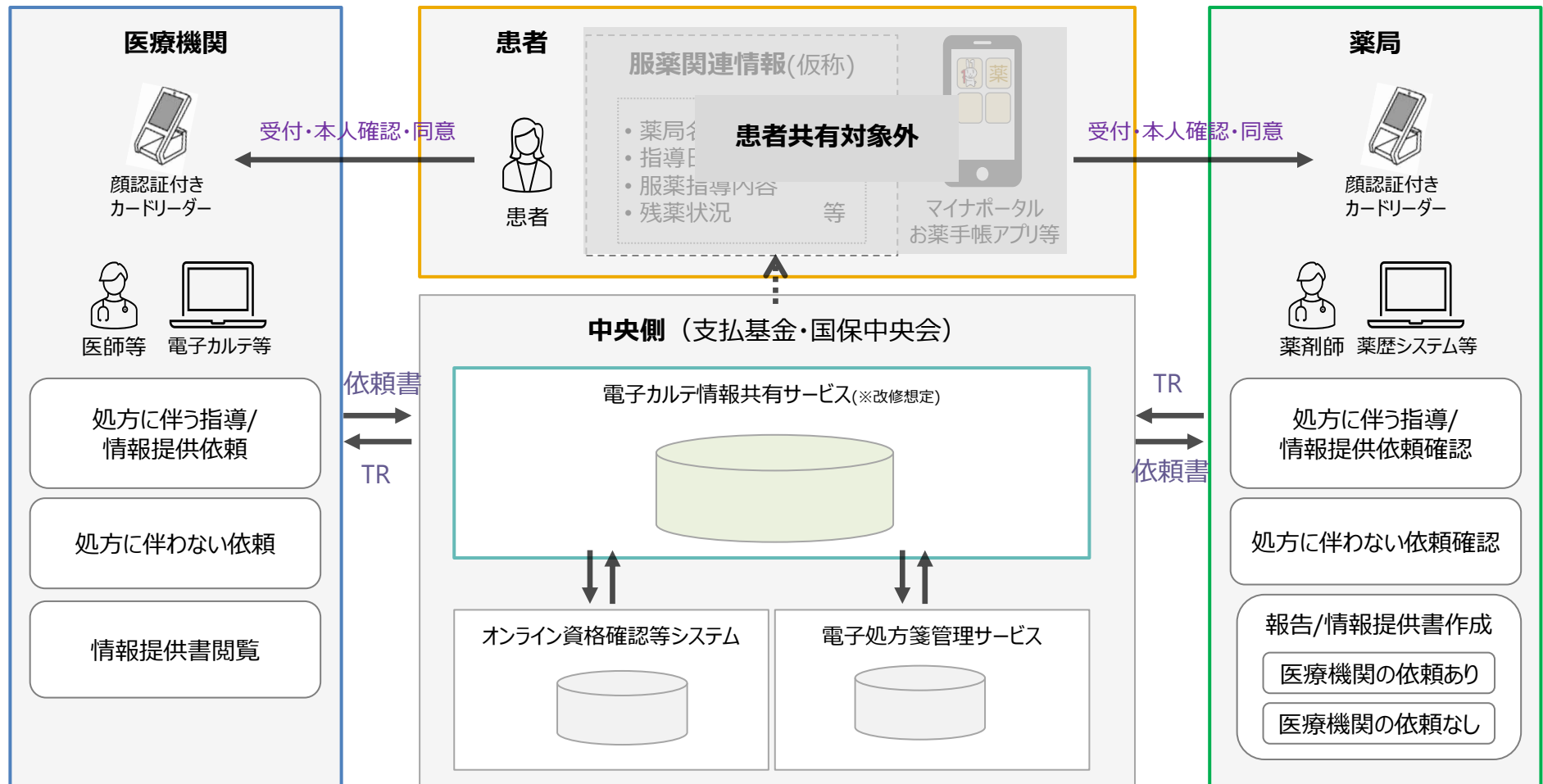
- 医療 DX の推進に関する工程表において「薬局側から医療機関側に提供される、服薬状況等のフィードバック情報に関し、その内容や共有方法、必要性等についても今後検討する」、経済財政運営と改革の基本方針2025において「薬局が有する情報の標準化とDXを進める」とされていることを踏まえ、医療機関・薬局間の情報・文書の共有・標準化等の検討を実施。
- 医療機関・薬局間では、処方箋のやりとりの他、服薬状況の報告等医療の質の向上に資する文書等による情報連携が行われているが、その内容・様式は多様。
- また、紙・FAX等での連携が中心であり、電子カルテへの取り込み等業務負担が生じている。

## 対応案

- 患者へのフォロー・コミュニケーションを通して入手した情報の中で、現行業務において文書により処方医とやり取りされている情報・文書（緊急性が高く電話等でやり取りされている情報を除く）、いわゆるトレーシングレポート等（文書に付随する指導依頼等の情報・文書を含む）について、医療機関・薬局間で電子的連携の仕組みの検討を進めてはどうか。
- 「質の高い医療」に繋がる情報・文書を共有対象とするため、拡張可能性も見据えつつ、まずは、調剤報酬等で定められている文書を対象としてはどうか。
- システム負荷を小さくする等の観点から、診療情報提供書等の文書を共有する仕組みを有する 電子カルテ情報共有サービスの基盤等を活用した仕組みで情報共有することを念頭に進めてはどうか。
- 文書の発出元・先の医療機関・薬局間におけるやり取りを前提としたものであることから、電子的な共有においても、共有の範囲はこれまでの運用どおり、文書の発出元・先の医療機関・薬局間までの共有としてはどうか。
- 電子カルテ情報共有サービスの普及も見据えた上で、2030年目途の仕組みの実装を目指し、令和8年度より関係者を交えた上で、電子的共有におけるトレーシングレポート等の運用の在り方、フォーマット、システム項目（規格・仕様等）、現状の運用・業務フロー等に必要な機能、電子処方箋機能の活用等について検討を進めてはどうか。

# 医療機関・薬局間の情報連携におけるシステム全体像イメージ

## 医療機関・薬局間の情報（いわゆるトレーシングレポート（TR））連携におけるシステム全体像イメージ



# 政府方針①

## ●経済財政運営と改革の基本方針2025（令和7年6月13日閣議決定）

### 第2章 賃上げを起点とした成長型経済の実現

#### 3. 「投資立国」及び「資産運用立国」による将来の賃金・所得の増加

##### (2) DXの推進

(医療・介護・こどもDX)

全国医療情報プラットフォームを構築し、電子カルテ情報共有サービスの普及や電子処方箋の利用拡大（中略）  
**薬局が有する情報の標準化とDXを進める。**

## ●経済財政運営と改革の基本方針2026（令和8年7月21日閣議決定）

### 第2章 日本の成長力強化と安全・安心の確保

#### 1. 「強い経済」の実現

##### (2) 成長基盤の強化

(AX／DXの推進、フロンティアの開拓)

**「デジタル社会の実現に向けた重点計画」に基づき**、技術革新に対応した自動運転社会の早期実現に向けた環境整備、信頼性あるデータの利活用に関する環境整備、政府のデジタル基盤の強靱化・自律性向上や**デジタル行財政改革を進める。**

### 第3章 責任ある積極財政に基づく「中長期経済財政計画」

#### 2. 全世代型社会保障の構築

##### (2) 成長型経済に合わせた持続可能な社会保障制度

(医療・介護等)

医療情報化推進方針を策定し、医療機関の情報システムの刷新、特定機能病院等の緊急的な対応を含めたサイバーセキュリティ対策を進め、**電子カルテ・電子処方箋の普及と情報連携**、医薬品等のデータベースの構築、公費負担医療や予防接種・母子保健のデジタル化等、医療・介護に関する情報の連携と二次利用を含む利活用の基盤を構築し、切れ目なく最適なサービスを効率的に提供する。

## 政府方針②

### ●デジタル社会の実現に向けた重点計画（令和8年7月21日閣議決定）

#### 第1 目指す社会の姿、取組の方向性と重点的な取組

##### 4. 取組の方向性と重点的な取組

##### （3）国民の暮らしの AX/DX 推進（安全で便利な地域の暮らし）

##### ③ 医療 DX の推進

##### ア 電子カルテの推進・普及等

○電子カルテ情報共有サービスについては、令和7年から開始したモデル事業を通じて把握した課題に対応し、令和8年度中に、全国的な運用を開始する。また、令和9年度以降は、**共有可能な情報の拡大**（医療介護の連携、歯科医療機関や**薬局が有する情報の活用**等）及びマイナポータルを活用した利便性向上に係る検討を進め、運用状況を踏まえつつ更なる改善を図ることや、医療 DX の基盤となるマイナ保険証の利便性の向上等を含め、全国医療情報プラットフォームの機能拡充等に取り組む。

### ●デジタル行財政改革 取りまとめ2026（2026年7月7日デジタル行財政改革会議決定）

#### Ⅱ. 各分野における改革

##### 1. デジタル行財政改革の重点分野

##### 【医療・介護 DX】

##### ● 医療 DX

##### <必要な取組>

##### （3）電子処方箋の導入促進等

##### ④ 医療機関・薬局間の情報連携の推進

電子処方箋により共有される情報以外にも、薬局から医療機関に提供される服薬状況のフィードバック情報等、医療の質の向上等につながる有用な情報がある。こうした情報連携で用いられるいわゆるトレーシングレポート等の文書は、現状 FAX 等によるやりとりが中心であり、使用されている様式も多様で、医療機関でも電子カルテへの取り込み等の業務負担が生じている。このため、今後は、こうした薬局が有する情報の連携を行うための様式等の標準化と電子カルテ情報共有サービスの基盤の活用等を含めた電子的連携等について、電子カルテ情報共有サービスの普及も見据えた上で、2030 年目途の実装に向け検討を進める。

# 「医療機関・薬局間における情報の共有・標準化等に関する検討会」の進め方

- 地域包括ケアシステムの更なる進展が求められる中、薬局薬剤師が地域の医療機関等と連携しながら、薬学的専門性を活かした対人業務を充実させ、医療の質を向上させるためには、医療機関・薬局間の情報連携等の推進が必要である。
- 医療機関・薬局間における情報連携の仕組みについては、現状地域ごとに異なる運用がなされ、紙・FAX等での連携が中心であり、医療現場で負担が生じている場合がある。電子処方箋を始め、全国医療情報プラットフォームの構築が進み、施設間を跨ぐ情報の共有の仕組みが構築・普及される中、これらの課題に対応するため、医療機関・薬局間における情報の共有・標準化等の仕組みのあり方を整理する。

## 【検討事項】

- (1) 医療機関・薬局間の情報連携における情報の電子的な共有の仕組みについて
- (2) 医療機関・薬局間の情報連携における情報の標準化の仕組みについて
- (3) 医療機関・薬局間の情報連携の仕組みの運用フローについて
- (4) その他の医療機関・薬局間において活用される情報等の課題について

令和8年度

4月－7月

第32回医療等情報  
利活用WG

8月－3月

検討会開催（4回程度）

令和9年度以降

検討会開催（必要に応じて）

## 【方向性】

- ・ 電子的連携の仕組みの対象
- ・ 電子カルテ情報共有サービスを活用した仕組み
- ・ 文書の共有範囲
- ・ 2030年目処の実装

## 【検討事項】 ※厚生労働省政策統括官付医療情報連携担当参事官室等と連携

- ・ 現状に対する議論
- ・ 目指すべき姿
- ・ 有用性
- ・ 電子化・標準化の対象文書
- ・ 標準化方針
- ・ 共有方法
- ・ システム基盤
- ・ 業務フロー 他

適宜  
報告

## 【検討事項】

- ・ 要件定義
- ・ 技術解説書
- ・ モデル事業
- ・ 実装時期 他

医療等情報利活用WG

1. 本検討会の進め方
- 2. 医療機関・薬局間の情報連携（トレーシングレポート）の現状**
3. 医療機関・薬局間の情報連携の目指す姿・課題
4. 個別論点への対応
  - 電子化・標準化の対象となる文書範囲について
  - 標準化の方向性について

# トレーニングレポートとは（概要）

トレーニングレポートとは、薬剤師が服薬指導やフォローアップ等の中で入手し、医療機関に情報提供すべきと判断した患者の服薬状況等を共有するための文書であり、施設によって様式や運用方法は異なる。

## トレーニングレポート



- ・ 薬剤師が医師に対し、患者の服薬状況や副作用、残薬等の情報を伝えるための文書であり、医師は次回以降の診察・処方に役立てることができる。  
例：副作用の症状が出た場合に次回処方薬を変更する、残薬を踏まえて適切な量を処方する 等
- ・ 調剤報酬上、「服薬情報等提供料」等として評価され、薬剤師が医師に報告することで、加算の算定が可能となっているものがある。※算定の対象となっていないレポートもある。
- ・ 現状は、薬局から医療機関にFAX等で送付されるケースが多い。

トレーニングレポートの様式については全国的に決められているものではないが、調剤報酬上評価されるものについては定められている様式その他、薬剤師会等が公開している様式や、薬局または医療機関が独自で作成している様式が使用されている。

### 【調剤報酬上で定められている様式】

### 【地域薬剤師会で公開している様式】

## 運用方法について、医療現場から寄せられた声（例）

- ・ 門前の医療機関には手渡しだが、その他はFAXで送信している。医療機関に文書を送る際、電話でFAX番号の聞き取りを行ったリ、報告が必要かどうかの確認をしてから送付している。
- ・ 病院等からフォーマットが指定されている場合もあり、施設によって様式を分けている。 等

# 現行のトレーシングレポートの業務の流れ

現行運用では、医療機関から薬局への情報提供依頼に基づき作成するパターン1と、医療機関からの依頼はないが薬剤師が必要だと判断して医療機関に情報提供をするパターン2の2種類がある。

## 現行のトレーシングレポートの業務の流れ

凡例



医療機関



薬局

①薬局に情報提供を依頼する

①患者情報を収集する

②トレーシングレポートを作成する

③トレーシングレポートを送付する

### パターン1

医療機関から薬局に情報提供を依頼する（医療機関からの依頼に応じて吸入薬の指導を行う場合等）

服薬指導の際のヒアリングや過去の薬歴情報、架電・アプリの活用等により患者の情報を収集する

①で聞き取った内容を踏まえ、トレーシングレポートを作成する  
※様式は施設によって異なる

- ・ 送付先の医療機関の連絡先を調べる（電話番号・FAX番号等）
- ・ 上記の方法で、トレーシングレポートを送付する  
※手渡しのケースもある

### パターン2

医療機関からの依頼はないが、薬剤師が必要だと判断した場合に患者の情報を収集する

④トレーシングレポートを受け取る

⑤トレーシングレポートを活用する

⑥トレーシングレポートを保管する

薬局からトレーシングレポートをFAX等で受け取る  
※病院の場合、薬剤部で受付した後必要に応じて医師に共有されることが多い

- ・ 次回の処方や診察に活用する
- ・ （必要な場合は）薬局に返信や、後続の対応依頼をする

- ・ 医療機関と薬局のそれぞれがトレーシングレポートの内容や生じたやり取りの経緯を記録する
- ・ 医療機関では主に電子カルテ、薬局では薬歴システムや紙等で保管する

業務内容

業務内容

## 医療機関・薬局間でやりとりがされている情報・文書

薬局から医療機関に対する情報提供の実施状況を確認するため、調剤報酬で定められる算定要件（様式の指定有無含む）や算定回数についてデスクトップ調査を実施。

| 主な調剤報酬<br>(2026年) | 主な算定要件            |                                                                           |                       | (参考)<br>2024年度算<br>定回数※2 |
|-------------------|-------------------|---------------------------------------------------------------------------|-----------------------|--------------------------|
|                   | 指示者               | 内容                                                                        | 様式                    |                          |
| 服薬情報等提供料 1 ※1     | 医療機関              | 残薬の報告、リフィル処方箋による調剤において2回目以降調剤時に服薬情報等を医療機関へ文書で情報提供を実施した場合に算定               | 別紙様式 1 - 1 又はこれに準ずるもの | 約42万回                    |
| 服薬情報等提供料 2 ※1     | なし<br>※薬剤師判断      | 調剤後における患者の服用薬及び服薬状況フォローアップについて、医療機関/介護支援専門員へ文書で情報提供を実施した場合に算定             |                       | 約111万回                   |
| 服薬情報等提供料 3 ※1     | 入院予定の医療機関         | 入院先の求めに応じ、患者の服用薬の情報等の一元的な把握・患者が薬局に持参した服用薬の整理等を実施し、医療機関へ文書で情報提供を実施した場合に算定  | 別紙様式 1 - 2 又はこれに準ずるもの | 約1.4万回                   |
| 服用薬剤調整支援料 1       | 患者(意向)            | 内服を開始して4週間以上経過しており、内服薬6種類以上を調剤している患者について、処方医へ文書で情報提供を実施し2種類以上減薬できた場合に算定   | 明記無し（文書により情報提供）       | 約1.2万回                   |
| 服用薬剤調整支援料 2       | 患者/家族等の求め         | 複数の医療機関から内服薬が合計で6種類以上処方されている患者に対して重複投薬等の解消のための取組を行い、処方医へ文書で情報提供を実施した場合に算定 | 別紙様式 2 又はこれに準ずるもの     | 約2.9万回                   |
| 吸入薬指導加算           | 医療機関<br>患者/家族等の求め | 文書と練習用吸入器等を用いて、患者に吸入手技の指導を行い、吸入指導の結果等を医療機関へ文書で情報提供を実施した場合に算定              | 明記無し（文書により情報提供）       | 約234万回                   |

※1 かかりつけ薬剤師指導料、かかりつけ薬剤師包括管理料を算定している場合は算定しない(その他算定不可のケースあり)。よって、調剤報酬算定回数よりも実際の文書発行枚数が上回る可能性が高いことに留意が必要。(2026年の診療報酬改定により、かかりつけ薬剤師指導料が廃止)

※2 出典 第11回NDBオープンデータ 調剤行為（算定回数）

# 医療機関・薬局間でやりとりがされている情報・文書

(前ページ続き)

| 主な調剤報酬<br>(2026年)                | 主な算定要件       |                                                                                                                                 |                 | (参考)<br>2024年度算<br>定回数※2 |
|----------------------------------|--------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------|--------------------------|
|                                  | 指示者          | 内容                                                                                                                              | 様式              |                          |
| 調剤後薬剤管理指導料<br>1,2 ※糖尿病・慢性心不全患者のみ | 医療機関         | 調剤後に電話などで、患者に体調変化などを確認、必要な指導を行い、処方医へ文書で情報提供を実施した場合に算定                                                                           | 明記無し（文書により情報提供） | 約5.2万回                   |
| 特定薬剤管理指導加算<br>2 ※抗悪性腫瘍剤を注射された患者  | なし<br>※薬剤師判断 | 悪性腫瘍の患者に電話などで、患者に体調変化などを確認、必要な指導を行い、医療機関へ文書で情報提供を実施した場合に算定                                                                      |                 | 約4.5万回                   |
| 在宅患者訪問薬剤管理指導料1,2,3               | 医療機関         | 医師の指示を受け、薬剤師が薬学的管理指導計画を策定・指導を行い、指示を行った医師へ文書での情報提供を実施した場合に算定                                                                     |                 | 約154万回                   |
| 在宅患者緊急時等共同指導料                    | 医療機関         | 在宅患者が状態の急変を起こした際、施設と連携している保険医等の指示を受け、保険医や看護師、介護支援専門員等と共同でカンファレンスを実施し、その結果を踏まえ、患者に対して療養上必要な薬学的管理指導を行い、指示を行った医師へ文書で情報提供を実施した場合に算定 |                 | 約4500回                   |
| 在宅患者緊急訪問薬剤管理指導料1,2               | 医療機関         | 在宅患者が状態の急変を起こした際、施設と連携している保険医等の指示を受け、計画的な訪問薬剤管理指導とは別に、緊急に患者宅を訪問して、必要な薬学的管理指導を行い、訪問結果について指示を行った医師へ文書で情報提供を行った場合に算定               |                 | 約75万回                    |

※1 かかりつけ薬剤師指導料、かかりつけ薬剤師包括管理料を算定している場合は算定しない(その他算定不可のケースあり)。よって、調剤報酬算定回数よりも実際の文書発行枚数が上回る可能性が高いことに留意が必要。(2026年の診療報酬改定により、かかりつけ薬剤師指導料が廃止)

※2 出典 第11回NDBオープンデータ 調剤行為（算定回数）

## 現行業務における課題

トレーシングレポートは、一部調剤報酬上、様式が定められているものもあるが、準ずるものも認められており、多くは様式に加え送付方法や記載内容も定められていない（P.10参照）。そのため、送付する側（薬局）は送付先毎に様式の指定有無や連絡先を確認する手間がかかっていることや、受け取る側（医療機関）にとっても、記載内容が統一されておらず、内容理解に時間を要するという声がある。また、紙で共有されているため、電子カルテシステムへの取込みに手間がかかる等の問題もある。

### 医療機関側

### 薬局側

#### 共有方法

- 紙での共有が主流であるため、システムに自動的に取りこむことができず、受領した文書を一度PDF化した上で電子カルテに取り込む作業が発生する。
- 手作業で電子カルテシステムへ取り込むため、転記作業の負荷や入力ミスの発生リスクがある。
- また、薬局に情報提供依頼を送る際にも、電子カルテに作成した文書を一度印刷し、FAX送付するといった運用が発生する。

- 紙での共有が主流であるため、電子薬歴システムで電子的に作成した文書を一度印刷する必要がある。
- 送付先施設ごとに共有方法（FAXやアプリ等）が異なるため、送付する際に都度の確認が必要となり、連絡先を管理する等の手間も発生する。
- 特に最初の送付時は、電話でFAX番号を聞き取るケースや文書送付時は事前に連絡が必要か等を確認するケースも存在する。

#### 様式

- 薬局毎に様式や記載内容が統一されておらず、内容を把握することに時間を要する。（そもそもトレーシングレポートであることを理解しづらいとの声もあり。）
- 緊急性の高い情報から重要度の低い情報まで混在しており、必要な情報を判別しづらい。

- 医療機関ごとに様式が異なり、ホームページで様式を確認するといった作業が発生する。  
※依頼と報告用様式が一体型のケースの場合は不要
- また、記載内容を指定されるケースも存在するため、その都度個別の対応が発生する。

## （参考①）令和8年度実施 医療機関・薬局向けアンケート調査概要

医療機関・薬局間で情報共有されている文書（トレーシングレポート）の活用状況・事例のアンケート調査を令和8年度に実施。

### 主な調査内容

- ① 【送付/受取フロー】
  - ・（医療機関）受取頻度、受取方法、受取後の業務フロー等
  - ・（薬局）作成に送付頻度、送付方法、作成・送付にかかる時間等
- ② 【活用実績】
  - ・（医療機関）医師が確認する割合、その内治療・処方方針の変更に至った割合（情報の種類ごと）等
  - ・（薬局）治療・処方方針の変更に至った割合（情報の種類ごと）等
- ③ 【具体的な活用事例】
  - ・（医療機関・薬局）患者の種類、トレーシングレポートの内容、対応事項、結果・効果等
- ④ 【活用に至らなかった理由】
  - ・（医療機関・薬局）活用できなかった情報・場面・理由等

### 実施方法

幅広く事例を調査できるよう、下記の団体の協力のもと、団体会員にアンケートフォーム（Googleフォーム）を送付しアンケートを実施。

#### 【協力団体】

公益社団法人日本医師会、公益社団法人日本歯科医師会、公益社団法人日本薬剤師会、一般社団法人日本病院会、公益社団法人全日本病院協会、公益社団法人日本精神科病院協会、一般社団法人日本医療法人協会、一般社団法人日本病院薬剤師会、一般社団法人日本保険薬局協会、一般社団法人日本チェーンドラッグストア協会、一般社団法人日本薬局協励会

### 調査期間

令和8年7月8日（水曜日）から令和8年7月23日（水曜日）まで

### 回答施設

医療機関：（病院）138施設、（診療所）233施設、（歯科診療所）550施設  
薬局：2,141施設

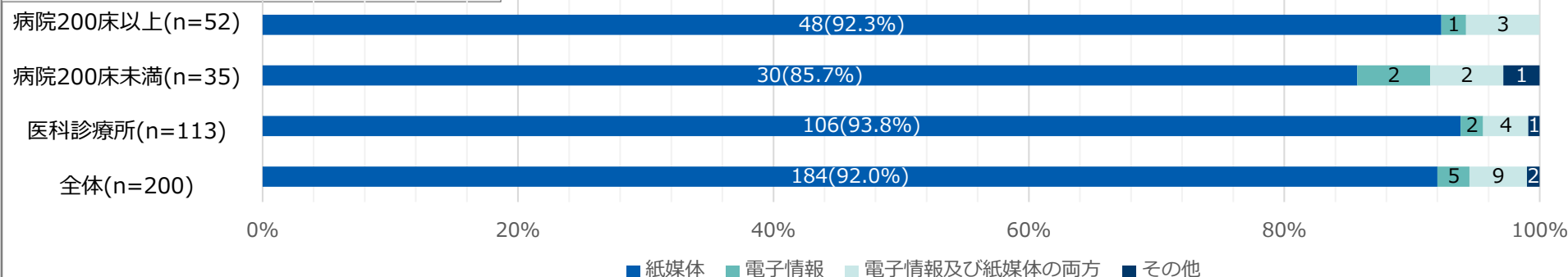
## (参考①-1) トレーシングレポートの受取方法/作成・送付方法

アンケートに回答した医療機関のうち92%（200施設中184施設）がトレーシングレポートを紙媒体で受け取っていると回答した。薬局においても、74%（1,515施設中1,121施設）が紙媒体で作成・送付しており、アナログな方法で運用されている実態がある。

### 設問（医療機関）

Q.TRの受取方法を教えてください

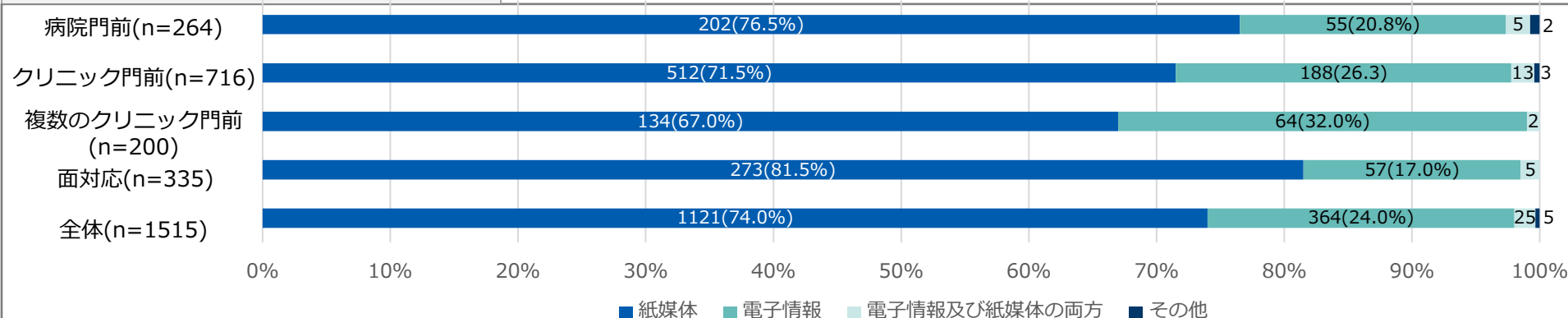
### 受取方法 回答



### 設問（薬局）

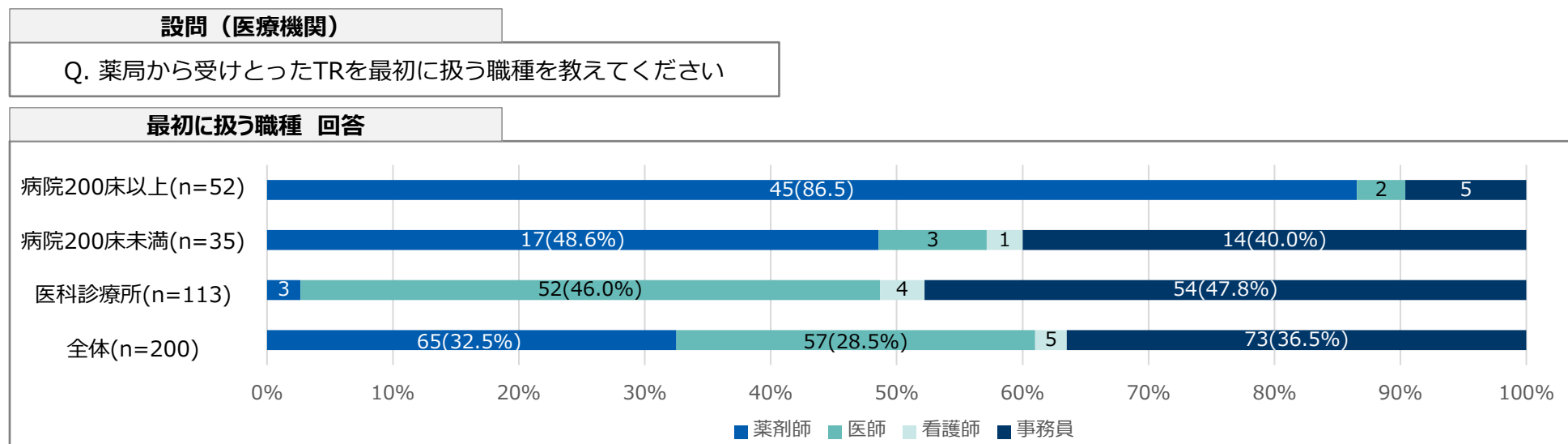
Q. TRをどのように作成しましたか？

### 作成・送付方法 回答



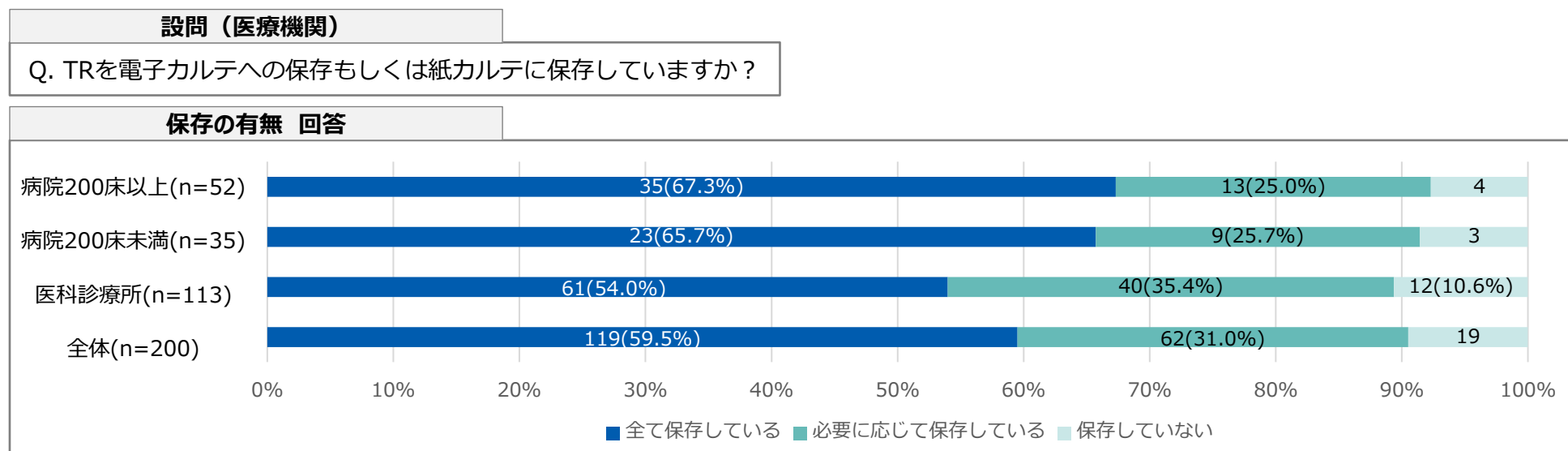
## (参考①-2) トレーシングレポートを受け取る職種

トレーシングレポートを最初に受け取る職種として、200床以上の病院では96.2%（52施設中50施設）が薬剤師や事務員の医師以外、医科診療所においては、46%（113施設中52施設）が医師と回答している。病院では、主に薬剤師の、診療所では医師の負担となっていることが考えられる。



## (参考①-3) トレーシングレポートの保存有無

アンケートに回答した医療機関のうち90.5%（200施設中181施設）がトレーシングレポートを「全て保存している」「必要に応じて保存している」と回答しており、92%の医療機関がトレーシングレポートを紙媒体で受け取っていることを踏まえると、トレーシングレポートの保存が業務負担になっていることが考えられる。



## (参考①-4) トレーシングレポートの代表的な活用事例

トレーシングレポートの活用事例として、服薬状況や残薬状況の可視化により処方設計や服薬指導に繋がった事例や、副作用の早期発見・重症化回避等に繋がった事例が挙げられている。

| 共有情報               | トレーシングレポートの活用方法例                                                   | 具体事例（実際の声）                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
|--------------------|--------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 服薬状況・アドヒアランスに関する情報 | 患者が医師に伝えられない服薬状況(嚥下機能、理解力、実際の服用方法)や残薬状況を可視化し、次回診察時の処方設計・服薬指導につなげる。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>睡眠薬の効果を実感できないという患者の訴えを薬局が把握し、トレーシングレポートで報告があった。睡眠薬の増量につながり、診察時に聞き取れなかった要望を処方調整へ反映するきっかけとなった。(一般病院・外来患者)</li> <li>吸入指導時のフィードバックについてトレーシングレポートで薬局から共有があり、吸入デバイスの選定を見直して吸入薬を変更した結果、治療継続につながった。(地域医療支援病院・外来患者)</li> <li>残薬状況と次回処方時の日数調整の必要性についてトレーシングレポートで薬局から共有があり、再診時に確認し、処方日数の調整につながった。(医科診療所・外来患者)</li> <li>錠剤を服用できていない状況がトレーシングレポートで薬局から報告があり、剤形変更を実施し、服薬を継続できるようになった。(地域医療支援病院・外来患者)</li> <li>リフィル処方時の患者の状況についてトレーシングレポートで薬局から共有があり、リフィル処方についての患者満足度や体調変化について確認することができた。(一般病院・外来患者)</li> <li>一包化するにあたって剤形、規格の変更をトレーシングレポートにて依頼した。結果、次回処方分からOD錠が普通錠に変更、5mg 2錠服用を10mg 1錠に変更され、一包化薬の品質保持・患者の飲みやすさの向上につながった。(薬局・在宅患者)</li> <li>薬局で実施しているヒアリングシートにて、昼の飲み忘れが多いことが把握できたため、医師にトレーシングレポートで変更提案を実施した。その結果、分3から分2になるように処方に変更され、患者の薬の管理の負担が減った。(薬局・外来患者)</li> </ul> |

# （参考①-5）トレーシングレポートの代表的な活用事例

（前ページ続き）

| 共有情報              | トレーシングレポートの活用方法例                                                              | 具体事例（実際の声）                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
|-------------------|-------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 副作用・有害事象に関する情報    | 診察時には把握しにくい患者の変化を薬局で把握し、 <u>症状・体調変化や相互作用の可能性を共有することで、副作用の早期発見・重症化回避につながる。</u> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ がん化学療法に伴う副作用についてトレーシングレポートで薬局から報告があり、制吐剤を追加した。その結果、吐き気が軽減し、治療継続につながった。（一般病院・外来患者）</li> <li>・ 術前中止薬の確認結果についてトレーシングレポートで薬局から報告があり、処方に反映した。その結果、周術期の安全確保につながった。（地域医療支援病院・入院前患者）</li> <li>・ 手術前の患者について、過去に抗生物質で副作用があった情報をトレーシングレポートにて報告した。その結果、周術期の抗生物質の予防投与は外用のみになり、副作用を事前に防止できた。（薬局・入院前患者）</li> <li>・ 「A病院から降圧剤追加になったが、150と下らない」と患者から相談があった。同じタイミングでB病院から漢方製剤分3処方で3カ月間継続服用しており、腎機能低下もある患者だったため漢方製剤による偽アルドステロン症の疑いをトレーシングレポートにてA病院に報告した。結果、A病院で採血したところ低K値になっていたので、B病院にも報告し漢方製剤が頓服に変更となった。（薬局・外来患者）</li> </ul> |
| 生活状況・職業・その他に関する情報 | 処方箋だけでは見えにくい <u>職業・生活背景を共有し、患者の生活に影響する副作用や安全性の課題を処方判断に反映する。</u>               | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 骨粗鬆症のため抗体医薬品+活性型VD3誘導体で治療している患者がVDを含む健康食品を内服している情報をトレーシングレポートにて報告した。結果、健康食品が活性型VD3誘導体かの減量を検討することとなった。（薬局・外来患者）</li> <li>・ 週1回の骨粗鬆症薬の服用について、仕事が休みの日でないとう服用が難しいと患者から言われた事をトレーシングレポートにて報告した。その結果、次回診察時に仕事が休みの日に服用するように指導され、服用曜日も変更された。（薬局・外来患者）</li> <li>・ 薬局から、トレーシングレポートにて他院の検査結果を確認したことによる、処方薬に関する相談があった。結果、処方薬の追加等の見直しができ、処方薬の調節ができた。（医科診療所・外来患者）</li> </ul>                                                                                                                                              |

## （参考②）令和7年度実施 医療機関・薬局向け調査概要

医療機関・薬局間で情報共有されている文書や現行業務等に係る現行調査として、デスクトップ調査、公益社団法人日本薬剤師会（以下「日本薬剤師会」と呼称）及び一般社団法人日本保険薬局協会（以下「日本保険薬局協会」と呼称）からの提供事例の調査及び医療機関・薬局へのアンケート調査（必要に応じてヒアリング）を令和7年度に実施。

### 主な調査内容

- ① 【サービス対象文書・項目】
  - ・診療報酬・調剤報酬で算定対象の医療機関・薬局の情報連携に係る文書、算定回数
  - ・医療機関・薬局の現行運用で実際に情報共有されている文書
- ② 【情報共有範囲】
  - ・トレーシングレポート情報を処方元/送付先以外の医療機関・薬局が活用することのメリット、留意点
  - ・トレーシングレポート情報を患者が活用することのメリット、留意点
- ③ 【現行課題を受けたサービスコンセプト（電子化・標準化対応方針）】
  - ・現行業務における課題や改善点
  - ・現行業務の実態と電子化による業務改善の可能性
- ④ 【サービス基盤】
  - ・トレーシングレポートを共有する民間サービス事例

### 実施方法

- ・必要項目や記載方法の洗い出しを目的としたデスクトップ調査と日本薬剤師会と日本保険薬局協会からの提供事例の調査を実施。
- ・上記の調査を踏まえ、現場での実運用等の調査を目的として、医療機関・薬局向けアンケートを実施。
- ・アンケート回答のうち、詳細の確認が必要な点については、別途ヒアリングを実施。

### 調査対象施設

- ・厚生労働省が選定した電子処方箋を積極的に活用している医療機関・薬局に加えて、日本薬剤師会、日本保険薬局協会、一般社団法人日本病院薬剤師会にヒアリングに協力する施設を選定。
- ・医療機関22（病院19、医科診療所3）、薬局8施設からアンケート回答を受領。

## （参考②-1）トレーシングレポートの様式について①

医療機関から薬局へ依頼される報告様式については、薬局の75%（8施設中6施設）が「医療機関ごとに依頼される報告様式・項目が異なる」と回答した。（アンケート調査した施設に限るが）様式や報告内容を指定する医療機関は全体としては多くないものの、複数の医療機関から依頼を受ける薬局は様々な様式に対応する必要がある。

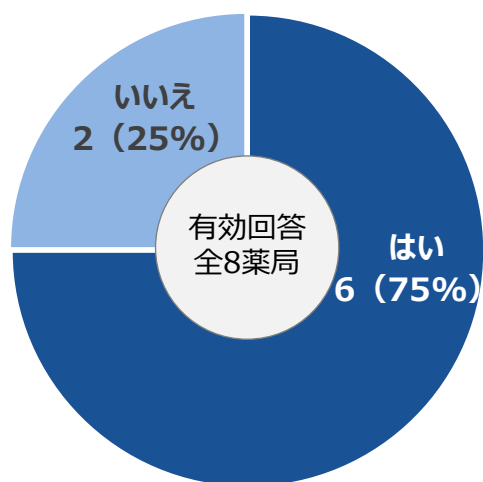
### 設問1-1（薬局向け）

吸入薬指導の報告書等、医療機関から薬局への情報共有の依頼について、薬局に提示される様式・項目は医療機関ごとに異なりますか。【単一選択肢から回答】

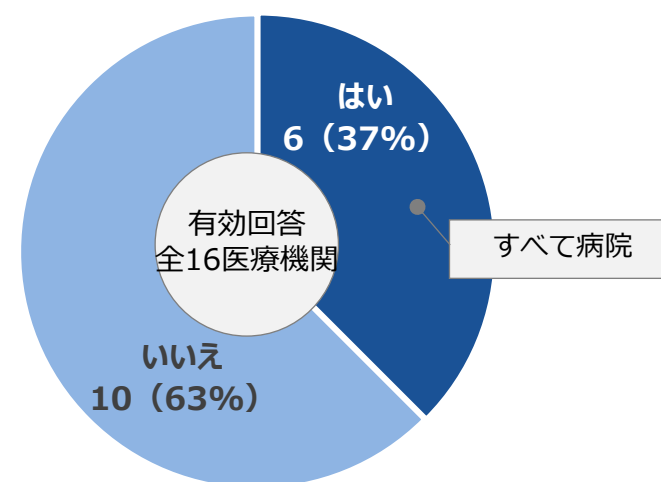
### 設問1-2（医療機関向け）

薬局に情報提供を依頼する際、提供してもらう様式や項目を指定することはありますか。【単一選択肢から回答】

【薬局回答】 医療機関から様式・項目の指定があるか



【医療機関回答】 薬局へ様式・項目を指定しているか



## (参考②-2) トレーシングレポートの様式について②

薬局から医療機関に情報提供する様式については、同じ用途の文書であっても、送付先の医療機関によって様式を変える薬局が半数程度であった。また、様式については、都度、送付先医療機関のHPで確認するケースや、経験や記憶で対応しているケースも存在し、負荷がかかる運用になっているだけでなく、属人的な対応になっている実態も見受けられた。

### 設問3-2 (薬局向け)

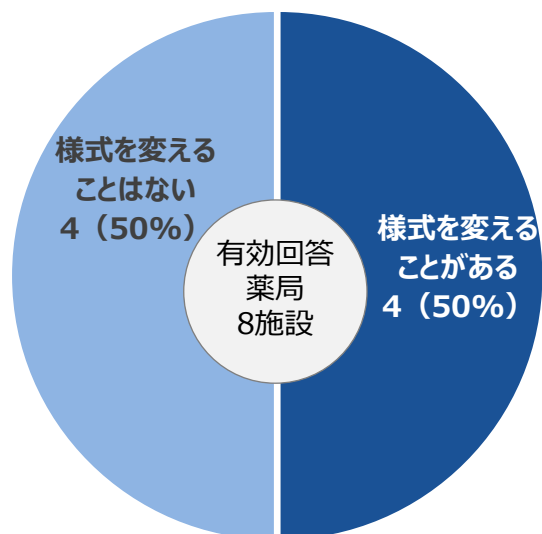
薬局から医療機関に共有する情報のうち、同じ文書（トレーシングレポート等）であっても、送付先の医療機関によって様式を変えることはありますか。【単一選択肢から回答】

### 設問3-3 (薬局向け)

3-2において「はい」と回答した方にお伺いします。

送付先の医療機関毎にどの様式を作成するのかをどのように管理していますか。【単一選択肢から回答】

#### 送付先の医療機関別の様式変更有無



#### 医療機関ごとの様式管理方法

- その都度病院のHPで確認している
- 病院と特に在宅療養での依頼元の医療機関とはコミュニケーション手段自体大きく異なるため
- 経験的に覚えている→処方箋に様式のありかが記載されている→薬剤師会のとりまとめ情報を参照する→医療機関に確認するの優先順位です
- 補足：福岡市薬剤師会では市内の大きな病院の疑義照会やトレーシングレポートについて、連絡・提出先、方法、様式などをまとめて会員向けサイトに掲載しています。

- ✓ 送付先の医療機関によって様式を変えることがある施設・変えることはない施設は半分ずつ
- ✓ 医療機関に直接確認の前にHPやとりまとめ情報を確認

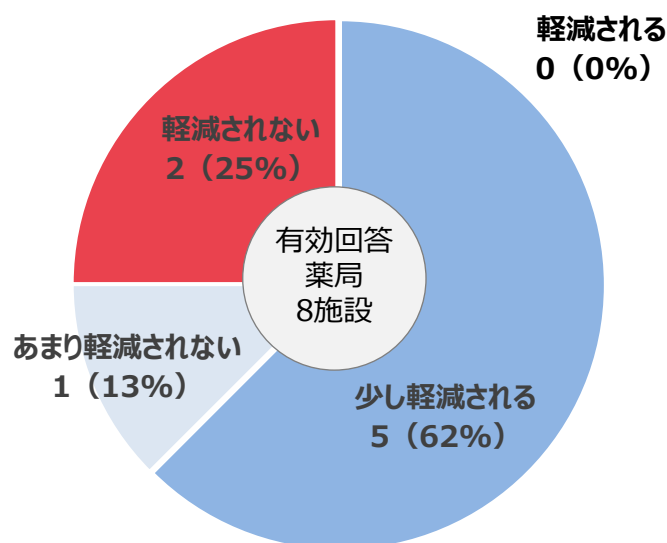
## （参考②-3）様式統一に対する意向（薬局）

アンケートに回答した薬局のうち 62%（8 施設中 5 施設）が、薬局から医療機関に情報共有する様式が全国で統一されると業務負担が軽減されると回答した。受け取り手である医療機関側にとっては、統一された方が読みやすい一方で、患者毎に提供すべき情報が異なるため、様式を統一しても空欄や追加項目が出てきてしまうといった回答もあった。

### 設問3-4（薬局向け）

情報提供文書等が全国で統一された様式（選択式を増やす等の工夫も含む）になることで、記載する業務の負担は軽減されると思いますか。【単一選択肢から回答】

#### 業務負担軽減度合い 回答（薬局計）



#### 「少し軽減される」回答の補足

- ・（特になし）

#### 「あまり軽減されない」「軽減されない」回答の補足

- ・ 患者ごと必要な情報は違うはず、様式があっても空欄と追加項目がでてくるため見にくくなるだけ。いずれにしても記載する内容は変わらないと考える。
- ・ 作成する側としては、特に必要性を高く評価していない情報が様式に組み込まれた場合がやりにくくなりそう。読む側としては統一様式の方が読みやすそう。現状、単に文章量の多い報告書の問題についても意見を交わしている。

## （参考②-4）様式統一に対する意向（医療機関）

薬局からの情報提供様式が全国統一された場合、約6割の医療機関が業務軽減されると回答した。全国で様式が統一された場合に項目数が増えないか、施設や地域に応じて共有されるべき項目が抜け落ちないか等の懸念も上げられており、書き方を標準化していくにあたって考慮する必要がある。

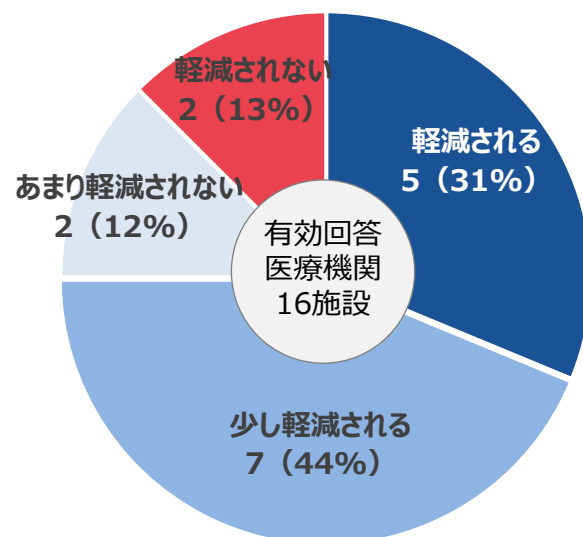
### 設問5-4

薬局から送られてくる情報提供文書等が全国で統一された様式（選択式を増やす等の工夫も含む）になることで、確認業務の負荷は軽減されると思いますか。【単一選択肢から回答】

### 設問5-5

5-4において「あまり軽減されない」、「軽減されない」と回答した方は、その理由を記載してください。【自由記述回答】

業務負荷軽減度合い 回答



✓ 薬局からの情報提供様式が全国統一された場合、約6割の医療機関が「業務軽減される」旨を回答

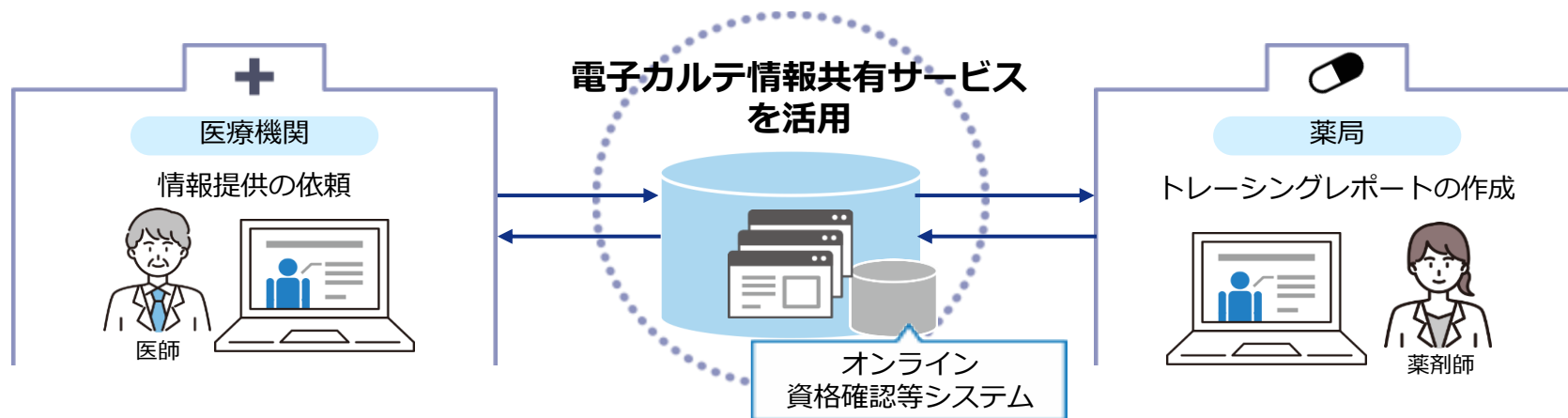
「あまり軽減されない」「軽減されない」回答の理由

- ・ 統一様式になれば記入項目が増えそう
- ・ 統一されることによって、提供元の情報が一律になり視認性が向上し提供内容が把握しやすくなると思われる。一方、当院では提供された情報（FAX、オンライン）は紙媒体として電子カルテへスキャンし、情報提供内容の概要を患者掲示板へ記載※しているため、様式の統一だけでは負担軽減にならない（スキャン作業および掲示板への記載がかなり負担となっている）。今後は、各ベンダーが電子カルテのフォーマットの統一を図ることにより、外部情報もオンラインで共有される仕様となることを期待する。  
※患者掲示板への記載を行っている理由として、電子カルテにスキャンされた情報を医師が確認することを失念しないように支援しているため
- ・ 現在の当院の運用では、様式の統一は、業務量に影響を与えない
- ・ 各施設、各地域での運用にあった様式を作成している場合もあると思われる

1. 本検討会の進め方
2. 医療機関・薬局間の情報連携（トレーシングレポート）の現状
- 3. 医療機関・薬局間の情報連携の目指す姿・課題**
4. 個別論点への対応
  - 電子化・標準化の対象となる文書範囲について
  - 標準化の方向性について

## 医療機関・薬局間の情報連携の目指す姿

- 現在、主に紙媒体で運用されているトレーシングレポートを電子化することにより、医療機関・薬局におけるFAXや印刷等の手間を削減し、業務の効率化を目指していく。
- また、標準化した様式を用いることにより、送付する側（薬局）が送付先の施設によって様式を切り分ける手間を削減するとともに、受け取る側（医療機関）においては、患者の服薬状況等を把握しやすくなり、臨床判断に繋がりやすい状態を目指していく。



### 医療の質の向上

- 経験の有無等、個々の薬剤師に依存せず、一定の内容が医療機関・医師に共有される
- 標準化された文書を電子的に共有することで医師が確認・活用しやすくなり、臨床判断に繋がりやすくなる

### 共有方法を統一することのメリット

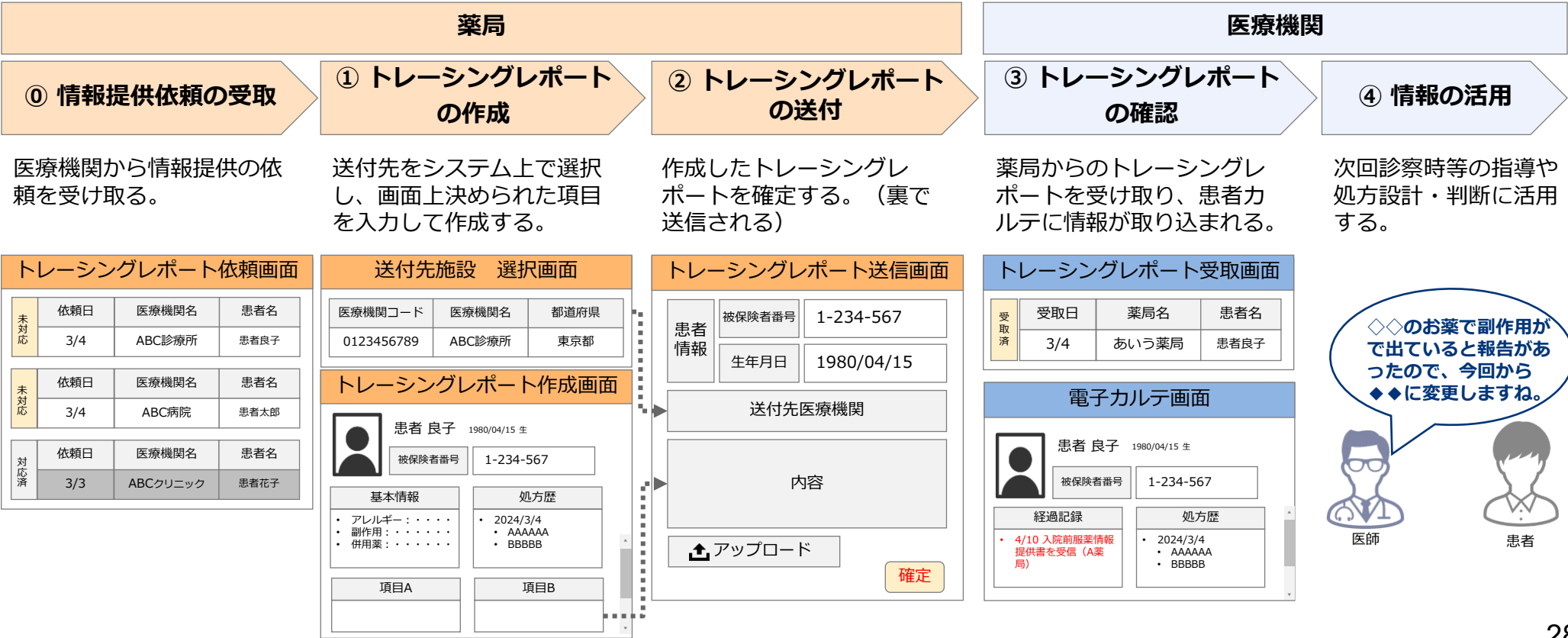
- 運用や共有にともなう事務作業（印刷、FAX、連絡先確認等）を削減できる
- 印刷・郵送にかかるコストを削減できる

### 共有する様式を統一することのメリット

- 受け取る側の医療機関、送付する側の薬局共に、施設ごとの報告内容や様式の違いに対応する手間を減らし、業務負担を軽減できる

# 医療機関・薬局間の情報連携の目指す姿（業務イメージ）

- 医療機関・薬局間での情報連携の業務イメージとしては、まず、薬局が自施設宛に届いている情報提供依頼を薬局のシステム上で確認できるようになり、標準化された様式で依頼内容を画面上で電子的に確認する。
- その後、送り先の医療機関の宛先をHPや電話等で確認することなく、同システム上で選択した上で、トレーシングレポートを作成する。作成完了後は、FAX送信のための印刷作業等を行うことなく、システム上で確定することで、相手の医療機関に電子的に送信される。



# 医療機関・薬局間の情報連携の対応方針と課題

【第32回健康・医療・介護情報利活用検討会医療等情報利活用ワーキンググループ（令和8年5月29日）を踏まえた対応方針】

- 拡張可能性も見据えつつ、まずは、調剤報酬で定められている文書を対象とする。
- 電子カルテ情報共有サービスの基盤等を活用した仕組みで情報共有することを念頭に進める。
- トレーシングレポート等の電子的な共有の範囲は、文書の発出元・先の医療機関・薬局間までの共有とする。
- 電子カルテ情報共有サービスの普及も見据えた上で、2030年目途の仕組みの実装を目指す。

## 医療機関・薬局間の情報連携における課題

| 分類                             | 主な課題                                                                                                    |
|--------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 電子化・標準化の対象となる<br>文書範囲          | 調剤報酬で定められている文書のうち、どの文書を対象とするか。                                                                          |
|                                | 医療機関から薬局に情報提供依頼を行うための文書も対象に含めるか。                                                                        |
| 様式の標準化の方向性                     | 標準様式を作成する際に、何の項目を共有できるようにするべきか。                                                                         |
| 電子的に文書を共有する仕組み                 | 電子的にデータを共有するための規格として、電子カルテ情報共有サービスの診療情報提供書等と合わせる形でHL7 FHIRを採用し、トレーシングレポートの項目を機械判読可能な形で構造化データとして共有するべきか。 |
| トレーシングレポートを電子的に<br>共有するための現場運用 | トレーシングレポートを電子的に情報共有するための医療機関・薬局の業務について、医師・薬剤師、患者の負担を最小限にするためにはどのようなフローにするべきか。                           |
|                                | 記載項目、内容にばらつきがあるとその評価に時間を要するという声を受け、作成基準等についてもルールを定めるべきか。                                                |
| 実装機能                           | 医療機関・薬局の業務フローを実現する上で、医療機関・薬局及び中央側のシステム基盤で何の機能を実装するべきか。                                                  |

1. 本検討会の進め方
2. 医療機関・薬局間の情報連携（トレーシングレポート）の現状
3. 医療機関・薬局間の情報連携の目指す姿・課題
- 4. 個別論点への対応**
  - 電子化・標準化の対象となる文書範囲について
  - 標準化の方向性について

# 本仕組みにおける電子化・標準化の対象となる文書の範囲

- 医療機関・薬局間の電子的連携の仕組みの検討においては、患者へのフォロー・コミュニケーションを通して入手した情報の中で、現行業務において文書により処方医とやり取りされている情報・文書（緊急性が高く電話等でやり取りされている情報を除く）、いわゆるトレーシングレポート及び一連のやり取りを円滑かつ、電子的に共有するために、本定義に該当する文書の提供に至った、医療機関から薬局への情報提供依頼を対象とする。
- その上で、電子カルテ情報共有サービスの基盤等を活用した仕組みで情報共有する上で、「質の高い医療」に繋がる情報・文書を共有対象とするため、拡張可能性も見据えつつ、調剤報酬等で定められている情報・文書を対象とする。
- 調剤報酬等で定められている情報・文書であっても、その要件の仕組み上、文書の送付件数が明らかではなく、実態を正確に捉えることは困難であることから、電子カルテ情報共有サービス等への負荷・コストを鑑み、まずは、調剤報酬上、文書での情報提供が求められている情報（①②）を対象として検討を進めてはどうか。

調剤報酬上、薬局から医療機関への情報提供が要件として定められている加算は下記 4 パターンある。

|                                       |       |                                                                                                                       |                                                                                                                     |
|---------------------------------------|-------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 調剤報酬上、文書での情報提供が求められている                | ①様式あり | <ul style="list-style-type: none"><li>服薬情報等提供料1,2,3</li><li>服用薬剤調整支援料2</li></ul>                                      |                                                                                                                     |
|                                       | ②様式なし | <ul style="list-style-type: none"><li>服用薬剤調整支援料1</li><li>吸入薬指導加算</li><li>調剤後薬剤管理指導料1,2</li><li>特定薬剤管理指導加算 2</li></ul> | <ul style="list-style-type: none"><li>在宅患者訪問薬剤管理指導料1,2,3</li><li>在宅患者緊急時等共同指導料</li><li>在宅患者緊急訪問薬剤管理指導料1,2</li></ul> |
| ③ 調剤報酬上、情報提供が求められている（文書での情報提供が必須ではない） |       | <ul style="list-style-type: none"><li>外来服薬支援料1</li><li>かかりつけ薬剤師訪問加算</li><li>麻薬管理指導加算</li></ul>                        | <ul style="list-style-type: none"><li>在宅患者医療用麻薬持続注射療法加算</li><li>調剤時残薬調整加算</li><li>薬学的有害事象等防止加算</li></ul>            |
| ④ 必要に応じて情報提供が求められている（文書での情報提供が必須ではない） |       | <ul style="list-style-type: none"><li>外来服薬支援料2</li></ul>                                                              | <ul style="list-style-type: none"><li>かかりつけ薬剤師フォローアップ加算 等</li></ul>                                                 |

1. 本検討会の進め方
2. 医療機関・薬局間の情報連携（トレーシングレポート）の現状
3. 医療機関・薬局間の情報連携の目指す姿・課題
- 4. 個別論点への対応**
  - 電子化・標準化の対象となる文書範囲について
  - 標準化の方向性について

# 本仕組みにおけるトレーシングレポートの“標準化”とは

- トレーシングレポートは医療機関・薬局間で文書により情報共有することが多いため、電子カルテ情報共有サービスにおけるトレーシングレポートの標準化とは、以下のような要素を組み合わせた様式を示す。
  - ・ 項目及び記述方法（全角/半角やコードだけでなく、自由記述含む）が規定されている項目
  - ・ その他、自由に記述できる項目 ※全国で現在運用されている全ての項目を反映はできないため

## “標準化”のイメージ

例：電子処方箋の場合

電子処方箋（一部項目を抜粋して例示）

|            |        |
|------------|--------|
| ・ 医療機関コード  | コード    |
| ・ 診療科コード   | コード    |
| ・ 薬品コード    | コード    |
| ・ 薬品補足コメント | テキスト記述 |
| ・ 備考欄      |        |
| テキスト記述     |        |

### コードで入力する項目

「何を記録するか（項目）」だけでなく「どのように記録するか（値の形式・記載方法）」まで明確に規定する。

例：医療機関コード、薬品コード 等

### テキストで記述する項目

「何を記録するか（項目）」だけでなく「どのように記録するか（テキスト記述）」まで明確に規定する。

### テキストで記述する項目

何をどのように記載するかのルールが定められておらず、記録内容の意味・形式・粒度はシステムや記載者によって異なる。

例：備考欄 等

# (参考) 吸入薬指導報告書の様式

同じ目的でやり取りされているトレーシングレポートであっても、医療機関・薬局によって項目や記述方法が異なる（表形式や選択式等）。（以下、吸入薬指導の報告書の場合）

## 吸入薬指導報告書のフォーマット例

| 吸入指導実施報告書・情報提供書                                                                                                                                                                             |                                                                                                        |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| (保険調剤薬局 → 処方医)                                                                                                                                                                              |                                                                                                        |
| 情報提供先医療機関名: ●●●●●● ●●●●                                                                                                                                                                     |                                                                                                        |
| 呼吸器内科 担当医:                                                                                                                                                                                  |                                                                                                        |
| 患者氏名(イニシャル):                                                                                                                                                                                | ID:                                                                                                    |
| 生年月日(M.T.S.H): 年 月 日                                                                                                                                                                        | 性別:                                                                                                    |
| 処方箋発行日:                                                                                                                                                                                     | 調剤日:                                                                                                   |
| 報告日:                                                                                                                                                                                        | 指導・確認対象者 本人 ・ その他 (関係)                                                                                 |
| 処方薬剤のコンプライアンス及びそれに対する指導に関する情報                                                                                                                                                               |                                                                                                        |
| 薬剤製品名                                                                                                                                                                                       |                                                                                                        |
| 用法(吸入回数)を答えられるか?                                                                                                                                                                            | <input type="checkbox"/> 出来る <input type="checkbox"/> 難あり                                              |
| デバイス操作を理解しているか?                                                                                                                                                                             | <input type="checkbox"/> 出来る <input type="checkbox"/> 難あり                                              |
| 吸入前の息はき時、吸入口に息がかからない様にできているか?                                                                                                                                                               | <input type="checkbox"/> 出来る <input type="checkbox"/> 難あり                                              |
| 吸入時の姿勢、デバイスのポジションは適切か?                                                                                                                                                                      | <input type="checkbox"/> 出来る <input type="checkbox"/> 難あり                                              |
| 吸入の強さは適切か?                                                                                                                                                                                  | <input type="checkbox"/> 出来る <input type="checkbox"/> 難あり                                              |
| 吸入後の息止めは出来ているか?                                                                                                                                                                             | <input type="checkbox"/> 出来る <input type="checkbox"/> 難あり                                              |
| うがいは出来ているか?                                                                                                                                                                                 | <input type="checkbox"/> 出来る <input type="checkbox"/> 難あり                                              |
| 指導薬剤師からのコメント                                                                                                                                                                                |                                                                                                        |
| 説明の内容(複数選択可):                                                                                                                                                                               | <input type="checkbox"/> 吸入説明書提供 <input type="checkbox"/> 口頭指導 <input type="checkbox"/> 動画使用           |
|                                                                                                                                                                                             | <input type="checkbox"/> 薬剤師による実演 <input type="checkbox"/> 患者さんによる吸入実施 <input type="checkbox"/> その他( ) |
| 報告内容                                                                                                                                                                                        |                                                                                                        |
| 吸入状況                                                                                                                                                                                        |                                                                                                        |
| <input type="checkbox"/> 問題なく使用可                                                                                                                                                            |                                                                                                        |
| 使用可と判断した理由 <input type="checkbox"/> 製薬会社提供のトレーナーで音が鳴った                                                                                                                                      |                                                                                                        |
| <input type="checkbox"/> 実際に吸入してもらった(吸い残しがない・漏い布を当て吸入確認・エアーもれなし・ミストもれなし)                                                                                                                    |                                                                                                        |
| <input type="checkbox"/> その他( )                                                                                                                                                             |                                                                                                        |
| <input type="checkbox"/> 介助あれば吸入可能 <input type="checkbox"/> 何度か練習すれば、なんとか自分で吸入可能 <input type="checkbox"/> 吸入困難                                                                              |                                                                                                        |
| <input type="checkbox"/> デバイス変更があれば吸入可能 推奨デバイス:                                                                                                                                             |                                                                                                        |
| 選択理由:                                                                                                                                                                                       |                                                                                                        |
| <input type="checkbox"/> スペースー使用 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無                                                                                                      |                                                                                                        |
| 併用薬剤等の有無 ( 有 ・ 無 )                                                                                                                                                                          |                                                                                                        |
| 薬剤名等:                                                                                                                                                                                       |                                                                                                        |
| 患者情報                                                                                                                                                                                        |                                                                                                        |
| 薬剤アレルギー(アスピリン喘息など) <input type="checkbox"/> 有 ( ) <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 不明                                                                                    |                                                                                                        |
| 市販薬・健康食品等 <input type="checkbox"/> 有 ( ) <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 喫煙歴 <input type="checkbox"/> 現在喫煙者 <input type="checkbox"/> 前喫煙者 <input type="checkbox"/> 非喫煙者 |                                                                                                        |
| 副作用・家族からの情報・薬剤保管情報等その他の報告                                                                                                                                                                   |                                                                                                        |
|                                                                                                                                                                                             |                                                                                                        |
| かかりつけ薬局様へ                                                                                                                                                                                   |                                                                                                        |
| ・症状のコントロールが良好な場合でも定期的に吸入を継続するよう指導をお願いします。                                                                                                                                                   |                                                                                                        |
| ・記入後は●●●●病院へ吸入指導実施報告書・情報提供書をFAXし、送達紹介もFAXで受け付けております。                                                                                                                                        |                                                                                                        |
| ・吸入困難・デバイス変更依頼などあれば、送達紹介お願いします。                                                                                                                                                             |                                                                                                        |
| FAX: ●●●●●●●●●●●●●●●● (薬剤部)                                                                                                                                                                 |                                                                                                        |
| 情報提供元保険薬局の所在地および名称:                                                                                                                                                                         |                                                                                                        |
| TEL:                                                                                                                                                                                        | FAX:                                                                                                   |
| 保険薬剤師名:                                                                                                                                                                                     |                                                                                                        |

| 報告日: 年 月 日                                               |                                                                          |
|----------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------|
| 服薬情報提供書(トレーシングレポート):吸入指導                                 |                                                                          |
| 御中                                                       |                                                                          |
| 患者氏名                                                     | 様                                                                        |
| 処方箋交付日                                                   | 年 月 日                                                                    |
| 患者生年月日                                                   |                                                                          |
| 患者の同意                                                    | <input type="checkbox"/> この情報を伝えることに對して患者の同意を得ています。                      |
|                                                          | <input type="checkbox"/> この情報を伝えることに對して患者の同意は得ていませんが、治療上重要と考えるため報告いたします。 |
| 処方せんに基づき調剤を行い、調剤交付いたしました。                                |                                                                          |
| 吸入薬の指導に関する情報提供として、下記の通り報告致します。                           |                                                                          |
| <input type="checkbox"/> 薬剤服用歴管理指導科 吸入薬指導加算 算定要件に関する情報提供 |                                                                          |
| 【使用薬剤・用法用量】                                              |                                                                          |
| 【指導歴】                                                    |                                                                          |
| <input type="checkbox"/> 初回                              | <input type="checkbox"/> 2回目以降・前回指導日( )                                  |
|                                                          | ・前回指導薬剤( )                                                               |
| 【到達目標達成度】 (1.できる 2.ほぼできる 3.ほぼできない 4.できない)                |                                                                          |
| <input type="checkbox"/> 初回操作ができる                        | (1・2・3・4)                                                                |
| <input type="checkbox"/> 日常的に正しい手技で行うことができる              | (1・2・3・4)                                                                |
| <input type="checkbox"/> 用法、吸入回数の把握(コンプライアンスは保たれている)     | (1・2・3・4)                                                                |
| <input type="checkbox"/> むせずに吸入することができる                  | (1・2・3・4)                                                                |
| <input type="checkbox"/> 吸入デバイスに合わせた力で吸うことができる           | (1・2・3・4)                                                                |
| <input type="checkbox"/> 息止めができる                         | (1・2・3・4)                                                                |
| <input type="checkbox"/> デバイスの交換時期を把握している                | (1・2・3・4)                                                                |
| 【課題点】                                                    |                                                                          |
| <input type="checkbox"/> コンプライアンス、アドヒアランス不良              |                                                                          |
| <input type="checkbox"/> 有害事象、副作用                        |                                                                          |
| <input type="checkbox"/> 手技困難、吸気不足                       |                                                                          |
| <input type="checkbox"/> その他                             |                                                                          |
| 【薬剤師からの情報共有】 患者情報で伝達が必要と思う事                              |                                                                          |
| 使用継続に関して不安あり口なし                                          |                                                                          |
| 薬局名                                                      | 住所                                                                       |
| TEL                                                      | FAX                                                                      |
| 担当薬剤師                                                    |                                                                          |

| 医療機関名                                       |                          | 診療科名                                                                                  | 医師名    |
|---------------------------------------------|--------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------|--------|
| 患者番号                                        |                          | 患者名                                                                                   |        |
| 下記の評価の通り、指導できたことを報告します。                     |                          |                                                                                       |        |
| 指導日                                         |                          | 年 月 日                                                                                 | 薬局 薬剤師 |
| ハンディヘラー(スビリーバ)の説明手順・吸入評価項目                  |                          |                                                                                       |        |
| 指導した項目・出来た項目には印がつけてあります。                    |                          |                                                                                       |        |
| 説明手順                                        | 評価                       | 項 目                                                                                   |        |
| <input type="checkbox"/>                    | <input type="checkbox"/> | ①キャップを開ける<br>▶ ハンディヘラーのキャップと中の白い吸入口を開ける                                               |        |
| <input type="checkbox"/>                    | <input type="checkbox"/> | ②カプセルを充填し、白い吸入口をしっかりと閉める。                                                             |        |
| <input type="checkbox"/>                    | <input type="checkbox"/> | ③カプセルに穴を開ける<br>▶ 吸入器のボタンを1回押すと、<br>(ボタンを押した指が吸入器の側面に触れるくらい)<br>カプセルに穴があき薬を吸入することができる  |        |
| <input type="checkbox"/>                    | <input type="checkbox"/> | ④吸入前の息の吐き出し<br>▶ 吸入器に息を吹きかけない。吸入器をくわえる前に、十分に息を吐き出す                                    |        |
| <input type="checkbox"/>                    | <input type="checkbox"/> | ⑤吸入する<br>▶ マウスピースを唇でしっかりとくわえ、正面を向いたまま、<br>速くできる限り息を吸い込む<br>▶ カプセルが回転する音がする            |        |
| <input type="checkbox"/>                    | <input type="checkbox"/> | ⑥息こらえ<br>▶ 吸入後は5秒程度(無理をしない程度に)息を止める(鼻からの息も止める)<br>▶ 1回の吸入でうまく吸入できていない場合は、④～⑥を1-2回繰り返す |        |
| <input type="checkbox"/>                    | <input type="checkbox"/> | ⑦カプセルを廃棄する<br>▶ マウスピースを開け、手でさわらずにカプセルを廃棄する<br>▶ キャップを開けてハンディヘラーを保管する                  |        |
| <input type="checkbox"/>                    | <input type="checkbox"/> | ⑧うがいをする<br>▶ 吸入後は口に残った薬を洗い流すためにうがいを実施する                                               |        |
| 【吸入器(ハンディヘラー)について】<br>・水洗い出来る。水洗い後は十分に乾かすこと |                          |                                                                                       |        |
| 指導上気になったこと                                  |                          |                                                                                       |        |
|                                             |                          |                                                                                       |        |
| 京都府薬剤師会 地域医療対策委員会吸入 WG ver.1.0              |                          |                                                                                       |        |

# 本仕組みにおけるトレーシングレポートの様式を統一することの メリット、留意点

- 電子カルテ情報共有サービスの基盤等を活用した仕組みを利用する場合、様式の標準化は必須である。
- 様式の標準化により、共有される内容が個々の薬剤師に依存せず、医療機関・医師に共有される内容が均質化され、情報の視認性が向上することにより業務の効率化が進むことが期待される。また、作成・送付する側（薬局）では、送付先に応じてフォーマットを確認・用意する手間の削減に繋がることが想定される。
- ただし、これまで活用されていたフォーマットを利用できなくなる可能性についても十分留意する必要がある。

## 文書の様式を統一することのメリット

※令和7年度実施の調査研究（医師・薬剤師向けアンケート・有識者へのヒアリング等）をもとに整理

### 文書の作成 （薬局）

- ・ 必要な情報の記載漏れや施設毎のバラつきを抑え、作成する薬剤師の年次やスキル等に依存することなく、一定の品質で報告書を作成できるようになる
- ・ 入力項目を統一することで、電子的な入力が容易になるだけでなく、周辺システムとのデータ連携や各種集計・分析等も可能となり、情報の利活用に繋がる

### 文書の活用 （医療機関）

- ・ 残薬の状況や服薬コンプライアンスなど、必要な情報がどこに記載されているか分かりやすくなり、受け取る側が報告内容を把握しやすくなる
- ・ 患者が服薬する上での課題や過去の薬剤師のフォロー内容を経時的に確認しやすくなり、患者の状態に応じた継続的な支援につながる

### ※留意点

- ・ 現状、独自様式を使用している場合、従来記載していた内容が共通様式上では記載できなくなる可能性がある
- ・ 様式の自由度が低下することや、必ずしも全てのケースで必要ではない項目が様式上含まれることで、かえって文書作成に時間を要することないよう留意する必要がある

# 本仕組みにおけるトレーシングレポートの標準化の方向性について

## 方向性①

- 電子カルテ情報共有サービスの基盤等を活用したトレーシングレポートの電子的な共有を行うことに鑑み、本仕組みにおいては標準化された様式（以下「標準様式」という。）のトレーシングレポートを用いることとしてはどうか。

## 方向性②

- 標準様式を作成する対象文書の数や粒度感については、医療現場での運用のしやすさの観点から今後検討を進めることとし、具体的には、関係団体の協力も頂き、検討を進めていくこととしてはどうか。

## 方向性③

- まずは、標準様式による運用を確認し、システムへの負荷等も踏まえた上で、標準化する文書の範囲を拡大するかどうか検討してはどうか。

## 方向性④

- 医療機関からの依頼書に関しても、本仕組みにおけるトレーシングレポートの標準化と同様の方向性で進めることとしてはどうか。（ただし、今後の運用フロー等の検討を踏まえて、標準化の方向性を変更する可能性があることに留意）

# 本仕組みにおけるトレーシングレポートの「標準様式」のコンセプトについて

- トレーシングレポートの中には、調剤報酬上で様式が指定されているケースがあり、調剤報酬との整合性の観点から、様式が示されているトレーシングレポートに関しては当該様式を標準様式として利用することとしてはどうか。
  - 様式が示されていないトレーシングレポートの標準様式を検討する上では、標準様式を示す対象文書や粒度感に関して、既に調剤報酬で示されている様式も踏まえ検討することとしてはどうか。
- (注) なお、システム実装に当たっては、電子データの特徴を踏まえた落とし込みを検討する必要がある。

## 調剤報酬で様式が示されているトレーシングレポート

### 服薬情報等提供料1,2

【依頼様式1-1】  
患者の服薬状況等に係る情報提供書

情報提供料1,2提供料2  
依頼者 氏名 住所 電話番号  
依頼先 氏名 住所 電話番号  
依頼内容  
依頼期間  
依頼回数  
依頼料  
備考

1. 処方箋の提供  
処方箋  
2. 処方箋の提供状況  
処方箋  
3. 処方箋の提供状況  
処方箋  
4. 処方箋の提供状況  
処方箋  
5. 処方箋の提供状況  
処方箋  
6. 処方箋の提供状況  
処方箋

### 服薬情報等提供料3

【依頼様式1-2】  
入院前の患者の服薬状況等に係る情報提供書

入院前服薬情報提供料3  
依頼者 氏名 住所 電話番号  
依頼先 氏名 住所 電話番号  
依頼内容  
依頼期間  
依頼回数  
依頼料  
備考

1. 入院前の服薬状況  
入院前服薬状況  
2. 入院前の服薬状況  
入院前服薬状況  
3. 入院前の服薬状況  
入院前服薬状況  
4. 入院前の服薬状況  
入院前服薬状況  
5. 入院前の服薬状況  
入院前服薬状況  
6. 入院前の服薬状況  
入院前服薬状況

### 服用薬剤調整支援料

【依頼様式2】  
服用薬剤調整支援料2に係る情報提供書

服用薬剤調整支援料2  
依頼者 氏名 住所 電話番号  
依頼先 氏名 住所 電話番号  
依頼内容  
依頼期間  
依頼回数  
依頼料  
備考

1. 服用薬剤調整支援料2  
服用薬剤調整支援料2  
2. 服用薬剤調整支援料2  
服用薬剤調整支援料2  
3. 服用薬剤調整支援料2  
服用薬剤調整支援料2  
4. 服用薬剤調整支援料2  
服用薬剤調整支援料2  
5. 服用薬剤調整支援料2  
服用薬剤調整支援料2  
6. 服用薬剤調整支援料2  
服用薬剤調整支援料2



## その他文書の標準様式の方向性

### ◆標準様式を作成する対象

既に様式が示されている左記の調剤報酬と整合性を取る形で、標準様式を作成する方向で検討する。

### ◆標準様式の記載粒度

記述方法は自由記載とする項目を基本として構成する。送付元/送付先や患者情報等は記述方法も規定するが、その他自由に内容を記述できる項目も入れる。

(注) 前述のとおり、現場の意見も踏まえ、関係団体の協力の下、様式を検討していく